1　死亡診断書について正しいのはどれか。

a　記載できない部分は空欄のままでよい。

b　「死亡したとき」は年、月、日を記載する。

c　死因統計作成の上での資料となる。

d　自殺は不慮の外因死になる。

e　交付は医療法で定められている。

2　多尿をきたす電解質異常はどれか。

a　高クロール血症

b　高リン血症

c　低カルシウム血症

d　低カリウム血症

e　低ナトリウム血症

3　脳波の原図を示す。

正しいのはどれか。

a　双極誘導である。

b　三相波を認める。

c　棘徐波結合を認める。

d　周期性同期性放電を認める。

e　Burst-suppressionを認める。

脳波の原図

4　浮腫について正しいのはどれか。

a　局所性浮腫は、腎でのナトリウム・水の再吸収の亢進によって発生する。

b　腎機能が正常な全身浮腫患者では、副甲状腺機能低下症を疑う。

c　片側下肢のリンパ浮腫では、骨盤部のエックス線CT検査が有用である。

d　慢性心不全では、全身浮腫は生じない。

e　高度の貧血では、腎でのナトリウム・水の再吸収亢進が持続する。

5　腹部診察で適切なのはどれか。

a　波動は腹膜刺激症状である。

b　視診、打診、聴診、触診の順で診察を行う。

c　Courvoiser徴候は深吸気時の右季肋部圧痛の増強をいう。

d　胆嚢結石では肺肝境界の下降を認める。

e　消化管穿孔では反跳痛を伴う。

6　救急外来での処置・対応のうち正しいのはどれか。

a　外傷症例での気道確保は頭部後屈にて行う。

b　循環の評価は気道を確保し心肺蘇生を２クール行ったあとに行う。

c　乳児の心臓マッサージの胸骨圧迫の深さは胸郭の前後径の約1/3である。

d　小児の一次救命処置では気道の確保より心臓マッサージが優先される。

e　小児の虐待を疑ったときは保護者の承諾を得た後、児童相談所または福祉事務所に通告する。

7　専門施設での加療を要する熱傷はどれか。

a　両手背Ⅰ度熱傷

b　右前腕伸側Ⅱ度熱傷

c　頸部全周性Ⅰ度熱傷

d　熱傷面積5%の前胸部Ⅱ度熱傷

e　気道熱症のある顔面Ⅰ度熱傷

8　胃癌患者の左鎖骨上リンパ節が転移で腫大している場合、その名称はどれか。

a　Blalock リンパ節

b　McBurney リンパ節

c　Virchow リンパ節

d　Rotter リンパ節

e　センチネルリンパ節

9　正しいのはどれか。

a　偽陽性率が高い検査は有用である。

b　尤度比が小さい検査は有用である。

c　ある疾患を確定するには感度の高い検査が有用である。

d　ある疾患を除外するには特異度の高い検査が有用である。

e　検査前確率と検査後確率の差が大きい検査は有用である。

10　血尿の所見はどれか。

a　ミオグロビン尿

b　ヘモグロビン尿

c　尿沈渣にて赤血球多数

d　尿沈渣にて白血球多数

e　尿沈渣にて硝子円柱多数

11　末期癌患者への治療について正しいのはどれか。

a　癌性疼痛に化学療法は無効である。

b　骨転移による疼痛に鎮痛薬は無効である。

c　多発性脳転移に放射線治療は無効である。

d　骨転移による疼痛の寛解に放射線治療は有効である。

e　多発性肺転移による血痰の軽減には手術が第一選択である。

12　頸部の診察法として正しいのはどれか。

a　耳下腺は下顎縁をⅡ、Ⅲ指でえぐるように触診する。

b　顎下腺は下顎角をⅡ、Ⅲ指でえぐるように触診する。

c　甲状腺の側縁は胸鎖乳突筋前縁をえぐるように触診する。

d　頸動脈の触診は聴診よりも先に行う。

e　頸静脈の怒張は座位で確認できる。

13　改正臓器移植法（2009年７月13日可決成立）として正しいのはどれか。

a　生体移植の規定が盛り込まれた。

b　同意年齢が12歳に引き下げられた。

c　一定の親族への優先提供が可能になった。

d　小児脳死臨調の設置が法律施行の条件とされた。

e　本人拒否がない限り家族の承諾で臓器提供可能となった。

14　インシデント（ヒヤリハット）事例に相当するのはどれか。

a　緑膿菌による院内感染が発生した。

b　医師が新型インフルエンザに感染した。

c　帰宅途中に患者が交通事故で死亡した。

d　抗不整脈薬の投与量を知らず、薬剤師に問い合わせた。

e　禁忌薬剤の処方箋を発行したが、薬剤師が確認中に気づき投与しなかった。

15　頭部単純CTを示す。診断はどれか。

a　被殻出血

b　皮質下出血

c　急性硬膜下血腫

d　急性硬膜外血腫

e　慢性硬膜下血腫

頭部単純CT

16　29歳の女性。尋常性乾癬にて通院中である。最近結婚し妊娠した可能性があるという。特に**不適切**な治療はどれか。

a　外用PUVA療法

b　免疫抑制薬内服

c　活性型ビタミンD3薬外用

d　副腎皮質ステロイド薬外用

e　非ステロイド系抗炎症薬外用

17　68歳の女性。身長155cm、体重45kg。血液型AB型Rh+。交通外傷による骨盤骨折に対して手術中である。現在出血量3,500㎖、ヘモグロビン6.5g/㎗、ヘマトクリット19.1%、血圧 98/65 mmHg、脈拍 105 ppm、SpO_2 100%であった。

赤血球輸血に関して正しいのはどれか。

a　現段階では赤血球輸血の適応ではない。

b　AB型の血液の供給が間に合わない場合、O型を輸血してもよい。

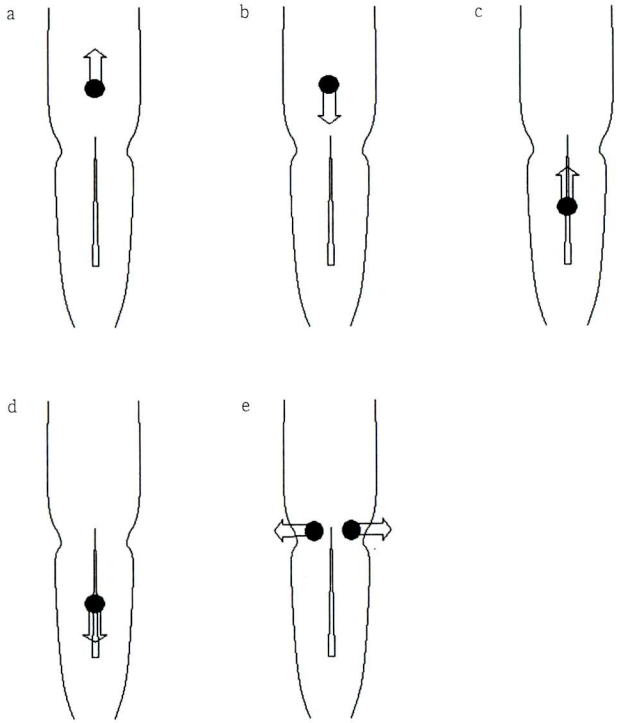
c　主交差適合試験は供血者血清と受血者赤血球で行なう。

d　血液型が一致していればアレルギー反応は起こらない。

e　大量輸血により低カリウム血症が起こる。

18 56歳の女性。肝硬変にて近医で経過観察されていた。超音波検査で肝に腫瘤を指摘され、精査治療のため、紹介受診となった。腹部造影CTを施行するため、右肘部で正中静脈に静脈ルートを確保することとした。図に細長い三角で穿刺針と穿刺方向を示す。穿刺時に皮膚を緊張させ、血管を固定することが必要であるが、黒丸で皮膚の圧迫点を、白抜き矢印で皮膚を引っ張る方向を示す。

正しいのはどれか。

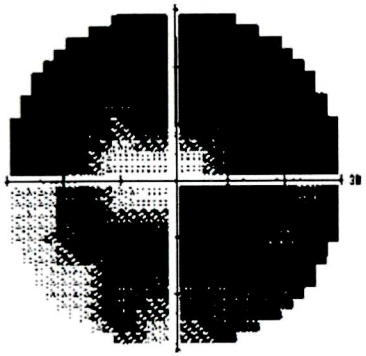


19 52歳の女性。原発開放隅角緑内障にて当院紹介となった。初診時の視力は両眼0.6（1.0×-1.50D）であり、眼圧は両眼36 mmHgであった。点眼治療にて眼圧は右眼14 mmHgと低下しているが、左眼は24 mmHgであった。視野は徐々に悪化してきている。左眼の眼底写真と視野所見を示す。

治療として、最も適切なのはどれか。

a　周辺虹彩切除術
b　線維柱帯切除術
c　超音波乳化吸引術
d　レーザー隅角形成術
e　レーザー虹彩切開術

左眼の眼底写真

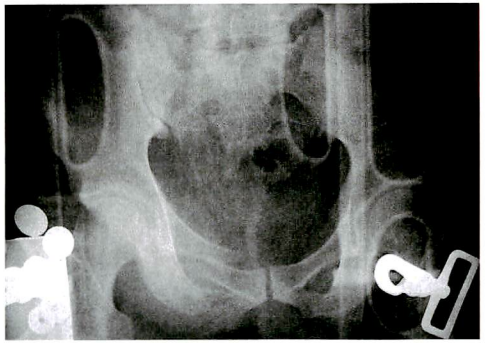


視野所見

20 18歳の男子。オートバイ事故で転倒し、救急車で搬送された。初診時、意識清明。血圧78/46 mmHg。脈拍118回/分、整。骨盤エックス線写真を示す。

初期治療で**誤っている**のはどれか。

a　開腹術
b　急速輸液
c　創外固定
d　大量輸血
e　選択的動脈造影



骨盤エックス線写真

21 45歳の男性。生来健康。昨日の夕食後から上腹部に激しい痛みが出現し、改善しないため来院した。意識清明。脈拍102/分、整。血圧140/86mmHg。体温38.2℃。血液所見：白血球14,600。血液生化学所見：総ビリルビン0.8mg/dℓ、直接ビリルビン0.5mg/dℓ、AST 34 IU/ℓ、ALT 28 IU/ℓ、血清アミラーゼ 50 IU/ℓ（基準37～125）。免疫学所見：CRP 1.46 mg/dℓ。理学所見：右上腹部を圧迫し患者に深呼吸させると途中で呼吸をやめてしまう。

先ず行う検査はどれか。

a　尿検査
b　便潜血検査
c　腹部超音波検査
d　上部消化管造影
e　上部消化管内視鏡検査

22 40歳の女性A。非常勤の仕事に従事しているが、低収入で生活保護を受けている。インフルエンザが流行し、咳が出て発熱が続いたため、病院を受診したところ、数回の通院により検査結果が判明し結核と診断され、入院となった。小学校に通っている息子は、ツベルクリン反応陽性で、その後、結核と診断された。保育園に通う娘はツベルクリン反応陰性だったため、BCG接種となった。

誤っているのはどれか。

a　息子が入院した際には療養給付がある。
b　女性Aの治療についての根拠法令は感染症法である。
c　娘のBCG接種時に事故がおきた場合、公費で救済される。
d　女性Aの入院時の治療費は医療保険の自己負担分のみ公費負担される。
e　女性Aの通院時の治療費については、自己負担分の10%を女性Aが負担する。

23 研修医Aは、同僚の研修医Bが忙しく手が離せないためにBの担当する患者の採血を頼まれた。
研修医A：「B先生が忙しいので、代わりに私が採血に伺いました。」
患　者C：「B先生からは、今日の採血の予定は伺っておりませんが…」
研修医A：「言い忘れたのかもしれませんね。私も忙しいのでとにかく採血をさせてください。」
患　者C：「そうですか。よろしくお願いします。」
採血が無事に終わった。血液で満たされた採血管をベットサイドから運ぼうとしたときに、
患　者C：「この採血管は私のではないね。ラベルにはDさんの名前が印刷してあるけど…」

正しいのはどれか。

a　まず患者に詫びる。
b　インシデントレポートは必要ない。
c　患者の疑問に答える必要はなかった。
d　患者確認は採血管のラベルとベッドの名札で行う。
e　自分が担当している以外の患者の採血は行ってはいけない。

24 75歳の女性。腰痛を主訴とし、多発性骨髄腫（病期IIIb）と診断された。加療のため入院した。以下は、医師と患者の会話の一部である。

医師　「抗ガン薬治療を明日から始めましょう。」
患者　「この病気は不治の病と聞いています。抗ガン薬治療は苦しいだけで受けたくありません。痛みだけ取ってください。」
医師　「抗ガン薬治療しないと、長くは生きれませんよ。」
患者　「いいんです。寿命ですから。」

医師の対応として適切なのはどれか。

a　転院を勧める。
b　主治医を交代する。
c　患者が抗ガン薬治療を承諾するまで説得を続ける。
d　鎮痛薬を投与し、看護師や精神科医にも意見を求める。
e　家族に説明し、抗ガン薬治療を承諾するよう患者を説得してもらう。

25 67歳の男性。会社員。20年来の糖尿病があり、インスリン注射を受けていた。3か月前に脳梗塞を発症し、右不全片麻痺を残し、車椅子生活となった。リハビリも終了し、独居の自宅への退院を希望しているが、インスリン注射は麻痺のため自分ではうてない。

在宅移行にむけて利用**できない**制度はどれか。

a　医療保険
b　介護保険
c　傷病手当金
d　障害者自立支援法
e　特定疾患治療研究事業

26 52歳の女性。3か月前から続く全身倦怠感を主訴に来院した。5日前に近医で受けた血液検査では異常なしと言われている。

生活歴：酒0.5合/日、喫煙30本/日×20年。

身長150cm、体重67.5kg。脈拍78/分、整。血圧136/90mmHg。腹囲88cm。

意識清明、心音に異常なし。呼吸音に異常なし。腹部：腫瘤触知なし。

血　算：白血球 7,900、Hb 11.9 g/dℓ、Ht 33.9%、血小板 28.7万、生化学：総蛋白 6.9 g/dℓ、ALT 28 IU/L、AST 21 IU/L、LDH 382 IU/L（基準176～353）、CK 117 IU/L（基準10～40）、尿素窒素 22 mg/dℓ、クレアチニン 0.7 mg/dℓ, Na 135 mEq/L、K 4.3 mEq/L、Cl 102 mEq/L、空腹時血糖94 mg/dℓ、トリグリセライド135 mg/dℓ。

正しいのはどれか。2つ選べ。

a　メタボリック症候群である。

b　塩分を12g/日に制限する。

c　全面禁煙を指導する。

d　全面禁酒を指導する。

e　BMI（Body Mass Index）は30.0である。

27 肝性脳症の昏睡度Ⅰ・Ⅱで**見られない**のはどれか。

a　深昏睡

b　異常行動

c　指南力障害

d　羽ばたき振戦

e　睡眠－覚醒リズムの逆転

次の文を読み、28～29の問題に答えよ。

58歳の女性。専業主婦。糖尿病外来を10年以上定期通院し、スルフォニル尿素薬を7年間内服しているが、食事療法が遵守出来ず血糖コントロールは不良である。自覚症状はない。身長156cm、体重65kg。脈拍82/分、整。血圧142/88mmHg。心音と呼吸音に異常なし。尿所見：蛋白（－）、糖2＋。血液所見：空腹時血糖184mg/dℓ、HbA1c 7.2 %（基準4.3～5.8）、総コレステロール 250mg/dℓ、トリグリセライド 180mg/dℓ。ある日の外来で、この患者から、「私の血糖値は今くらいがちょうどいいんです」という発言があった。

28 医師の発言として最も適切なのはどれか。

a　「そんなことはありません。空腹時血糖値は70～110mg/dℓが正常です」

b　「血糖値が高いと目や腎臓が悪くなるんですよ」

c　「それなら今後もこの外来に通院されますか」

d　「本日のコレステロールも高いですよ」

e　「どうしてそう思うのですか」

29 この患者の糖尿病のコントロールをよくするのに、最初に行うべきことはどれか。

a　食事療法をもっと頑張るように励ます。

b　自分の生活の問題点を振り返らせる。

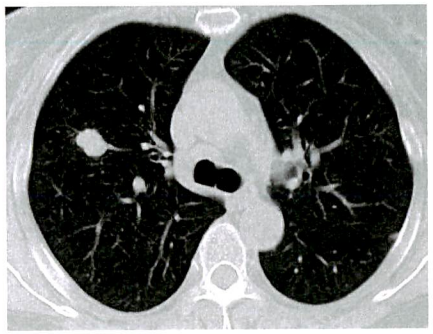
c　もっと運動してやせるように促す。

d　スルフォニル尿素薬を増量する。

e　インスリン療法を勧める。

次の文を読み、30～31の問題に答えよ。

60歳の女性。上行結腸癌のため、右半結腸切除術を受けた。術後３年目に胸部異常陰影を指摘された。診断及び治療目的のため開胸術を行ない、結腸癌の肺転移であることが判明した。胸部単純CTを示す。



胸部単純CT

30 病巣の位置として、正しいのはどれか。

a　右上葉

b　右中葉

c　右下葉

d　左上葉

e　左下葉

31 推定される肺への転移経路として、正しいのはどれか。

a　上行結腸――――――内腸骨静脈――――――門　脈――――――下大静脈――――――肺

b　上行結腸――――――上腸間膜静脈――――――肝静脈――――――下大静脈――――――肺

c　上行結腸――――――内腸骨静脈――――――下大静脈――――――門　脈――――――肺

d　上行結腸――――――下腸間膜静脈――――――肝静脈――――――下大静脈――――――肺

e　上行結腸――――――下腸間膜静脈――――――下大静脈――――――門　脈――――――肺